

日本山岳写真協会 選抜展「それぞれの山」No.15

日時/平成30年2月15日(木)～20日(火) 会場/ポートレートギャラリー

1	尾瀬初冬・尾瀬ケ原 四季を楽しませてくれる尾瀬。10月中旬になると、廻りの山々には初雪が降り冬の装いになる。 この時期、霧氷・初雪に出合えるのを楽しみに登行し、山ノ鼻で初雪に出会い、上田代でシャッターを切った。	石塚 茂
2	風の伝言・中央アルプス 風は見えない。だがまちがいなくここに己の存在を誇示し、強い自己主張を残していった。	伊原 明弘
3	春から初夏へ・八方尾根 冬季には中々人を寄せ付けない厳しい山でも、里に桜の便りが聞こえる頃になると、山々は白一色の世界から徐々に変化をしてくる。 風が変わり、空気が変わり山肌が変わる。激しい雪崩の後には、緑が眼を醒ます。 人里では、田畑にいそむ目安にとする。雪は解けて、植物は人々を呼ぶ。風は更に暖かさを運ぶ。ここに暫く通いながら、四季の断片に触れてみた。	井村 榮二
4	錫杖岳の四季・新穂高 新穂高温泉より見上げる錫杖岳の岩壁は、遊行僧の携行する錫杖の様な景観をしており、凜として気高く峻立している。 冬期は多くの積雪があり威厳性と風格が増す。岩壁は古くはRCCの藤木九三氏等により登られていたが、近年若い意欲的なクライマー達の活躍で注目を浴びている。四季折々の表情を見せてくれ魅了させられる。	岡 孝雄
5	コマクサ目覚める・蓮華岳 花の命は短い。ようやく花の時期に出会うことができた。夜露に濡れた花びらに、頭の先端から朝陽が差し込んでくる。 周囲は一面の雲海に包まれた中で、高山植物の女王コマクサのお目覚めである。誰に誇ることも無く、しかしその存在感はまわりを幸せな気分させてくれる不思議な花である。	福田 泰彦
6	森のドラマ・愛媛 皿ヶ嶺 森を歩いていると自然の脅威を目の当たりにする事がある。風台風が、皿ヶ嶺の森を襲う。倒木の多さに、もしかしてとの危惧が現実のものとなり、苔が美しかった岩を抱く木の根が剥がれて、木が倒れてしまっていた。 四季おりおりに訪れる森は、そんな自然の脅威にさらされながらも、いつも通りの営みが続いている。	やの みちよ
7	吹雪去る・北八ヶ岳 冬の北八ヶ岳では、立木は重い樹氷をまとい、岩にはエビノシッコがびっしりと立ち、場所によってはモンスターも現れる。 ここでは、吹雪の去った坪庭と中山という溶岩台地の様相を表現してみた。 夏とは全く異なる世界が出現している。	星野 吉晴
8	雨氷輝く・蓼科高原 2月中旬の白樺湖畔、深夜まで降り続いていた雨は上がって、明け方から抜けるような青空が広がった。気温は急激に下がり、厳しい冷え込みとなって、大門峠から姫木平辺りまでの白樺やカラマツに降り注いだ雨は、いっせいに氷結して、樹々は宝石をちりばめた様に輝き始めた。	小堀 彰
9	雲の貌・北ア・鏡平 雲は眺めていて楽しい。山岳風景に感動的な雰囲気をもたらす。いつも脇役の雲を主役にしてみよう。 どんな表情を見せてくれるだろうか? 「竜の如く」「浮浪雲」「急変」 これからも一瞬の感動を求めて、山と空をみつめよう。	川瀬 正博
10	春日・御在所岳 5月、初々しい緑の季節、御在所岳の山頂は春の花アカヤシオツツジが咲き誇る。青空に、霧に、そして曇天の空にも映えて、私は両手を広げ何度も何度も深呼吸。心と、からだの底の底まで緑とピンクに染まりそう・・・	舟橋 恵子
11	雪に映えるダケカンバ・八方尾根 この日の八方尾根は青空で最高のコンディション。雪の中のダケカンバを見たくて八方池まで上がると、不帰をバックに、きれいなシュプールとともにダケカンバが現れた。それもつかの間、一瞬でダケカンバは雪煙の向こうに消えた。	鈴木 好一
12	秋雲の尾瀬・尾瀬 尾瀬ケ原の朝は霧に覆われることが多い。日の出とともに霧は晴れ、雲が色付いて来る。そんな雲に彩られた尾瀬ケ原の秋の朝を、至仏山の中腹から俯瞰し、尾瀬ケ原の木道の彼方に仰ぎ、池塘に映してみた。	道 健一
13	素晴らしき出逢い・中央アルプス 冬の山稜はとても厳しく、ここ中央アルプス宝剣岳も凍てつく氷の世界。訪れた日は幸運にも穏やかな好天。モルゲンロート、岩に張り付く風と氷の造形美、アーベンロート、そして夜空に広がる無数の星々。 素晴らしい厳冬の世界に魅せられた1日だった。	大島 隆義
14	夜明けの尾瀬ケ原 夜中、まだ暗いうちに山ノ鼻から至仏山に登る。若干不安を抱えながら、中腹で夜明けを待つ。夜が明けるとともに感動のドラマが始まる。あるときは、夜明けとともに燧ヶ岳と尾瀬ケ原が赤く染まる。あるときは、尾瀬ケ原をうごめく雲たちを、雲間から注ぐ光が、あちこちで黄金色に染める。	緑川 邦雄